

平成 29 年度 関西観光・文化振興計画検討委員会(第2回)の概要について

- 1 日 時 平成 29 年 9 月 25 日 (月) 16:00～18:00
- 2 場 所 エル・おおさか(大阪府立労働センター)本館 6 階 606 会議室
- 3 出席者 各委員・構成府県市・関係機関(別紙名簿のとおり)
- 4 内 容
 - (1) 前回委員会の概要等
 - (2) 関西観光・文化振興計画中間案(素案)について
 - (3) 意見交換

5 摘 録

坂上座長

本日は第 2 回目の検討委員会として、中間案を取りまとめていく。観光は、関西が力を合わせて取り組む効果があるテーマ。この計画は非常に重要であり、より良い計画となるよう忌憚のないご意見をいただきたい。

事務局

第 1 回の委員会でいただいたご意見をもとに、構成府県市等と相談して作成した素案をたたき台として中間案をまとめていきたいと考えている。

改定のポイントは、

- ① 3 年連続して開催される、大規模なスポーツイベントと連動した誘客推進
- ② 文化庁の関西への全面移転、文化財の保存から活用へといった流れを踏まえた文化力の向上と文化観光の推進
- ③ これらを支えるインフラ、関西観光本部を中心とした推進体制等の基盤整備であり、これらを重視して案を作成した。

なお、目標数値は昨年上方修正しており、今回は修正していない。

(以下、素案の説明)

また、本日欠席の廣岡委員からは、「レンタカーの活用促進、統一的なバスの Web 検索システム、IT 技術者と観光事業者の意見交換の場の設定などを検討していくべき」とご意見をいただいている。

橋爪委員

万博の名称は、国際博覧会、万国博覧会などのパターンがあるので、表現の統一が必要。2 点目は、安心・安全の確保のところで、災害時だけでなくテロ対策など広く読み取れる表現にすべき。3 点目は新技術の活用については、今後も激変していくので、現在進行形でキャッチアップしていく必要がある。

また、宿泊客と住民との間の摩擦が問題化してきており、国際観光が進めば地域が良くなる、という観光まちづくりの視点が重要になってきている。宿泊施設不足への対応だけでは不十分ではないか。

事務局

宿泊施設対応については連合議会でも議論されているが、広域連合として出来ることと出来ないことがある。地域的なことは構成府県市が考えており、広域連合では分散して宿泊してもらうことに尽力している。

橋爪委員

国内観光が減っていることに対して、広域連合で出来ることはあるか。

事務局

西国三十三所などいくつか取組が始まりつつあるが、現在の計画はインバウンドに特化しており、計画期間内に国内誘客を含める議論は出来ていない。今後の展開として、各府県市のコンセンサスを得ながら議論していきたい。

坂上座長

外国人観光客が過密なところとそうでないところが極端である。外国人観光客が集中するところに、日本人が良さを発見できなくなり、長期的に日本人観光客が減っていく循環にならないようにしなければならない。

塩見委員

民泊についての考え方は、宿泊施設が足りないからという視点ではなく、空き家の放置による景観上の問題や、新しい客層を誘客するという観点から、他の宿泊事業者との共存を図るべき。当然、違法なものは取り締まらなければならない。

国際的なスポーツイベントについては、並行してその後のレガシーを準備しながら進めていく必要があると考える。

また、ナイトエンターテインメントの観点がもう少しあっても良いのではないか。

河内委員

東京でも大阪でも、裏方が少なくなり劇場が減っている。インバウンドを踏まえた新しい劇場運営スタッフを養成すべき時が来ている。計画にも反映されているが、大学にも働き掛けて、新しいジャンルを開発するような人材をつくりたい。

それから、美術館の夜間の開館については、何とかならないものかと思っている。

橋爪委員

最近ナイトタイムエコノミーという言葉が使われるようになってきている。ナイトタイムエコノミーを推進する議連も出来ており、地下鉄など公共交通機関の営業時間延長、劇場の夜間開場などのアイデアが出ている。今後、用語としてはナイトタイムエコノミーが使われていくと思う。

河内委員

劇場のナイトライフを考える時には、各劇場の観光に詳しいスタッフを集めて、ホテルなどの関係者を巻き込んでいくような新しい委員会を設置しないと、現実的には難しいと思う。

坂上座長

その委員会は、広域連合が担うのか、経済界が担うのか、議論が必要かも知れない。

橋爪委員

東京では、国立新美術館、森美術館、サントリー美術館の3つの美術館が、交通機関とも連携して24時間開館を行う「六本木アートナイト」という事例がある。官民が連携した、そういった取組が必要である。ただし、民業でできるものは、広域連合のコミットは要らない。

坂上座長

「次世代を担うプロデューサーの育成」については、文化、アート、またはエンターテインメントなど、どのようなプロデューサーかをイメージできる表現にした方が良い。

現行の計画には「KANSAI を世界に売り込む」という強いイメージを持った言葉があるが、素案の用語は行政的。イメージは重要であり、求心力のある表現が欲しい。今日は答えは出ないと思うが検討をお願いしたい。

事務局

最終案の確定までには期間があるので、考えていきたい。

橋爪委員

滋賀、大阪、兵庫の淡路島などで自転車に力を入れており、スポーツ・ツーリズムにサイクリングを記載すべき。大阪の岬町役場が、府県境を越えて、和歌山県のルートを含むサイクリングマップを作成した。府県をまたがるルートでのマップ作成など、

広域連合がサポートして欲しい。

事務局

関西観光本部で取組を始めており、何が出来るか検討していきたい。

塩見委員

外国人にスポーツ・ツーリズムを楽しんでもらうためには、我々がスポーツに親しむことも大事。ワールドマスターズゲームズ開催に向けた気運醸成としては、コーポレートゲームズを関西で取り組む、といった手法もある。

坂上座長

経済的な視点から観光消費単価の向上が重要である。日本の観光産業は、一人当たりの稼ぐ力が弱い。

事務局

観光消費に特化した取組は記載していない。課題のところでは、観光消費額の増加を念頭に誘客推進等を図ることとしており、計画全体として消費を上げていく想定である。広域連合としては、関西圏域内の周遊化を図り、旅行日数を増やすことで消費額を上げていく方向だと考えている。

坂上座長

具体的にどのようにしていくかについても検討してはどうか。

橋爪委員

今回、M I C E 振興策については記載しないのか。

事務局

大阪に I R 施設が出来る可能性が高いのであれば、M I C E についても、それを契機に関西でどう連携していくかを考え直していく予定としていた。

保科次長

文化庁移転にあたり、関西広域連合としてどう連携していくかご意見をいただけないか。

橋爪委員

文化財保護や大学による人材育成の中心的な場所であることを示すなど、文化首都と堂々とアピールすればいい。それから、大学などの研究機関や国際的な文化機関を関西に誘致するなど、文化庁の移転を契機として文化のハブ機能を高め、集積を図る。

坂上座長

文化資源の活用モデルを関西が多く示していくことは、あって然るべき。

河内委員

文化財活用モデルをつくっていければ、移転した価値はある。

塩見委員

外国人へのPRとともに、住民に対して文化資源への理解促進、啓発を図っていくことが肝要であり、住民が誇りを持てるようになる。

坂上座長

各委員からいただいた意見を事務局で反映いただき、再度各委員に確認いただいたうえで中間案としたい。事務局には修正確認作業をお願いする。

事務局

修正後の中間案を10月14日に開催する広域連合の議会で報告後、パブリックコメントを実施する。その結果を踏まえた最終案を第3回の検討委員会で報告し、来年3月の議会で決定することとなる。